

提供者の声

よしむら りくたろう
吉村 陸太郎 さん

(安永1町内)

益城町に移り住んで40年、もともと地質の技術者でしたから地震に対する興味もあり、自宅の周りの被災状況の写真を撮影したり、地震に関する昔の資料を眺めたりしていました。

そんな折、千葉に住む古い友人から、「益城町住民が見た熊本地震」というテーマで話をしてほしいとの要請の電話がありました。講演が済んで益城に帰った後、講演のために作った資料が何かの役に立ってないかと思い、小冊子とDVDにまとめました。

ある日、新聞を見ていると、益城町で地震の記録を募っているとの記事が目につき、提供することになりました。こんな経緯で益城町図書館に保存していただくようになった資料、ご覧いただければありがたいと思います。



▲町図書館内には、支援団体や個人、行政などから提供された、熊本地震に関する資料や物品の展示コーナーが設置されています。

▼吉村さんが提供した、震災の記録をまとめた手作りの小冊子。



皆さまの記憶や記録が、最も大事な素材です

司書の想い

にしむら
町図書館司書 西村 まみ さん (上 町)

阪神・淡路、東日本大震災を経て蓄積・重層化された経験や資料が、平成28年熊本地震において有益に活用されたことは言うまでもありません。

熊本では、明治22年に今回と類似した地震の経験がありました。しかし、この地震を世に伝える手段

があまりにも少なく、人々の危機感は薄弱でした。

一人の

ジャ

ーナリストの日記の現代語訳が127年ぶりに刊行されています。

天の災いに対し、人の力は微力です。この災いに立ち向かうには、人の英知と絆が最大の武器になるのではないのでしょうか。この度、私たちは家や家族、美しい風景をなくしました。その一方で、多くの支援を享受しました。この事実を収集し後世に伝授していくことが、私たち司書にできる小さな役目です。未曾有の地震を物語る写真(定点観測が望ましい)や手記、関係資料などのご提供をお願いいたします。皆さまの記憶や記録が最も大事な素材です。その種を司書が分類・保管し、永久に残る益城町の新たな郷土資料に育てます。どうか、みんなで手を取り合って震災文庫を作ることができるよう。

ご提供・ご連絡はこちら

益城町図書館

(交流情報センター ミナテラス内)

☎ 287-8411

E-mail kouryu@town.mashiki.lg.jp

【お知らせ】

「熊本地震から1年」を迎え、催しを行います。

日時：4月16日(日)

10:00～ 収集資料・画像・映像の公開

13:00～ 学芸員によるお話と座談会

場所：交流情報センター ミナテラス